

赤十字ボランティアのための情報誌

R C V Red Cross Volunteer No.64

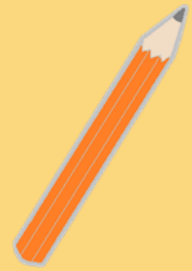
特集：子どもの学習支援

02 地域で支える「てらこや」～仙台市宮城赤十字奉仕団吉成分団～

04 奨学金×諫早市赤十字奉仕団

子ども
×
学習支援





地域が子どもを支える 「てらこや」

宮城県仙台市宮城赤十字奉仕団吉成分団



現在、日本の子どもの約6人に1人が貧困と言われており、社会問題となっています。子どもの相対的貧困率(※)は1990年代半ば頃から概ね上昇傾向にあり、2012年には16.3%となっています。子どもがいる現役世帯の相対的貧困率は15.1%であり、そのうち、単親世帯の相対的貧困率が54.6%と非常に高い水準となっています。

そこで今回、地域で子どもを支える「てらこや」を運営している仙台市宮城赤十字奉仕団吉成分団にインタビューしました。

※相対的貧困率：全人口における所得の中央値の半分を下回っている人の割合を示している。

活動のキッカケ

生活保護を受けている母子家庭の母親が病気で寝込みがちで子育てが十分でなく、学校の宿題や、学習の遅れが目立っているという話を聞いたことが始まりです。このように家庭の事情で学力の低下が見られる子どもや、障がいのある子どもに対し、夏休みや冬休みを利用して支援したいとの強い思いを活動に込めています。

地区社協役員、民生児童委員、市民センター館長、町内会住民、大学生、小中学校の教員など大変多くの方が「てらこや」にボランティアとして関わっています。



インタビューに答える熊谷団長(写真中央)と津田さん(写真右)



「吉ボラ」の見守りで、勉強に励む児童

吉成中学校「吉ボラ」との協働

この地域では吉成中学校の生徒がボランティア(吉ボラ)として、「てらこや」の活動に参加しています。今年の夏には4日間でおおよそ50名の吉ボラが先生として活動しました。

吉ボラの中には以前、「てらこや」の学習支援に生徒として参加していた中学生もいます。先生として参加してみて、「教えるのは難しかったけど、楽しかった。将来は学校の先生になりたい。」と話してくれた中学生がいるなど、活動に広がりが出てきています。

楽しい学習会を目指して

国語や算数などの勉強を教えた後に、お楽しみ会があります。過去には、プロの演奏者による音楽コンサート、宮城教育大学や東北福祉大学の学生が教える手話講座、草笛体験、ビー玉遊びなどの体験学習も行いました。

初めての経験で、子どもたちは目を輝かせながら楽しんでくれました。子どもたちにストーリーを考えさせながら話を進めていく紙芝居なども行っており、子どもたちを楽しませる工夫が盛り込まれています。



参加者が夢中になったけん玉教室



今年の夏に、実際に「てらこや」に参加した二階堂親子

“地域の人が開催しているから安心”

小学1年生の心花(みはな)さんは、「勉強の後に、草笛の体験やビー玉遊びをして楽しかった。」とニコリ。母親の朋子さんは「地域の人たちが開催している活動なので安心して参加させてあげられた。「てらこや」では、子どもたちが日頃経験できないようなことも経験できるので、とても新鮮でした。」と話しました。

吉成分団の今後の目標

この活動を始めるうえで重要なことは、地域や学校、住民との相互理解です。学校や住民の協力があって成り立つ活動だと考えています。地域との連携を強めるために、夏祭りなどのイベント開催や日頃の挨拶を通して、常につながりを持ち続けることを大切にしています。顔を覚えてもらうことで、安心して活動に参加していただけます。活動当初は、生徒は10名ほどしかおらず指導者の方が多かったのが、地域との連携を強めることで多くの子どもたちが参加してくれるようになりました。

「てらこや」による学習支援は地域住民や関係団体からも好評で、「夏休み、冬休み以外にも開催してほしい」との声もあります。今後は、お楽しみ会に様々な団体に声をかけ、子どもたちに多くの経験をさせることを目標としています。

《インタビューにご協力いただいた皆様》

熊谷英昭団長、津田正明さん、二科鑛治郎(にしな こうじろう)さん、渡辺礼子さん、二階堂心花さん、二階堂朋子さん

Q1. 奨学金制度を行った経緯・背景を教えてください。

A. 初代会長である江川先生の「奉仕団で1円ずつ集めたら地区一人くらいの授業料になるのではないか」という発案から、1962(昭和37)年から支援が始まりました。平成27年3月末までに238名の学生が本制度を活用し、進学しています。本奨学金は返還不要ですので、多くの方から喜ばれています。

Q2. 制度に対する周りの反応を教えてください。

A. 支援を受けた学生やご家族からは、多くの感謝の言葉をいただきます。また、返還不要にもかかわらず、初任給やボーナスを奨学金制度の原資にあててほしいとお金を送金していただいた方もいました。そういった心遣いが非常にうれしいです。最近では、足が不自由な学生さんに、車いすの購入費として奨学金を支給。その後、バスケットボールで国体に出場したと聞き、みんなで喜びました。また、奨学金を自宅から学校までの交通費にあてた子もいました。本制度は地域のみなさんのお役に立っているからこそ、これまで長く続けられたものと思います。

Q3. 他の奉仕団が似たような制度を取り入れたいと思った場合、重要になることは何ですか。アドバイスをください。

A. 重要なことは、信頼関係です。対象者の家庭とのつながりを大切にすることはもちろんですが、教育委員会、自治体との連携も大切にしています。支援対象者とのコミュニケーションや教育委員会との交流、自治体とのやりとりは制度を運用するうえで不可欠です。日ごろから協働する団体や住民の方々と顔の見える関係を構築しておくことが本制度のみならず、その他の活動にも大きく影響していると言えます。

Q4. 最後に、ボランティア活動を続けるうえで、みなさんの原動力になっているものがあれば、教えてください。

A. 私たちの活動の原動力となっているのは、活動することで築くことができる人とのつながりと地域の方々から寄せられる信頼感です。また、地域のリーダーとして、ニーズに応じた活動をしなければいけないという使命感もモチベーションになっています。赤十字奉仕団員は年々減っていますが、今後も地域のために活動を続けていきたいと思っています。

全国に約130万人の赤十字ボランティアがいますが、その中で奨学金を助成している奉仕団がいることをご存知でしょうか？
今回、約55年前から取り組みを行っている諫早市赤十字奉仕団を取材しました。

奨学金×諫早市赤十字奉仕団 「二百円でできる奨学金」



たかのしずか
イラスト:高野 晏

(明治学院大学3年)

<奨学金制度のしくみ>

一人あたり200円を原資として徴収し、奨学金として充当している。

1. 支援対象者の選定方法

支援を受けるこどもの保護者は団員に限定。選考は奉仕団三役と地区長で行うが、成績優秀者だけでなく、多くの方に支援の機会を提供できるように考慮している。

<参考:奨学金制度普及のプロセス>

各地区会長 → 各学校の校長(副校長・教頭) → 学生

2. 募集期間・応募数

募集期間は1月~2月で各中学校の校長を通じて対象学生を募っている。応募総数は3~5名程度で、現在は年間で1人を支援をしている。

3. 支援金について

3か月に一度、4月・7月・10月・1月に奨学金を支給。年間で6万円となる。支援金の使途は定めていない。支援を受けたという確認の証として領収書をこども本人の名義で家族からもらっている。支給の際は、対象者宅を直接訪ねて手渡す。

長崎県諫早市赤十字奉仕団:

大久保てるひ委員長を筆頭に約860名が在籍。現在は奨学金支援のほか、義援金や救済のための友愛セール(バザー)、特別養護老人ホームでのボランティア活動、独居高齢者への給食サービスなども精力的に行っている。同奉仕団は13の地区から構成され、各地区のニーズに応じた活動を展開している。同奉仕団は諫早市婦人会としても活動を行っている。



左下:大久保委員長
下中央:西山支部
委員会委員長
右下:草野副委員長
左上:石丸副委員長
右上:田前副委員長

編集後記

RCV編集委員として再び携われたこと(※平成26年度の本誌編集にも参加)を嬉しく思います。私は、諫早市連合婦人会を訪問しましたが、支援する方々の熱い思いを聞くうちに、多くの方の協力が学習支援につ

ながることを知りました。少しばかりの気遣いが誰かの明日を助け、明るい未来をつくと私は考えます。この広報誌を通して、皆さんの日常に誰かを思うちょっとした余裕が生まれることを願っています。また、この広報誌が新たな支援を始める契機になれば幸いです。(明治学院大学 渡辺真帆)

私も渡辺さんと同じく2回目の編集委員です。私は仙台市宮城赤十字奉仕団吉成分団の「てらこや」学習支援活動の紹介を担当しました。取材を通して地域のつながりや暖かさを感じることができました。ページのデザイン構成も初めてだったので、いい経験になりました。次号のRCV編集も楽しみです。(明治学院大学 蓼原彩香)



編集委員の渡辺さん(左)と蓼原さん(右)

NEXT ⇒ 「独居高齢者への支援」

内閣府が発行した「平成26年度版高齢社会白書」によれば、65歳以上の高齢者が全世帯数の約4割を占めており、さらにそのうちの半数が「単独」もしくは「夫婦のみ」となっています。65歳以上の独り暮らしの高齢者は男女ともに増加傾向にあり、世界と比べても高い高齢化率を記録しています。

赤十字奉仕団でもすでに多くが単身世帯の高齢者に対する支援活動を行っています。他団体と協働しながらボランティア活動に取り組んでいる奉仕団にスポットをあて、支援活動の成果と他団体との協働について取り上げます。



デイケアサービスを運営する千葉県君津市赤十字奉仕団

赤十字ボランティアへの参加、登録についてのお問い合わせ

日本赤十字社の活動は、全国のボランティアによって支えられています。あなたも、“苦しんでいる人を救いたい”という思いを行動に移してみませんか？

赤十字ボランティアへの参加は日本赤十字社各都道府県支部・施設で受け付けています。

ホームページから

日本赤十字社

検索

<http://www.jrc.or.jp/volunteer>



FacebookやTwitterでも逐次情報を更新しています！



○編集・発行

事業局 パートナーシップ推進部 ボランティア活動推進室 青少年・ボランティア課

電話：03-3437-7083(ダイヤルイン) ホームページ：<http://www.jrc.or.jp>